

# 民報 藤島

2016年 11月27日

第1076号

編集発行  
日本共産党藤島支部

生活相談所  
加藤鉦一（宝徳）  
Tel.0235-64-3941  
携帯090-8929-4221  
HPは「藤島 加藤鉦一」と検索で入力。

発行経費にカンパをお願いします。民報配布者にご連絡下さい（月177円程度）  
11月 28人 29,027円  
10月 34人 42,746円

## シズリ田園回帰第7巻に学ぶ 「農のある暮らしと食文化」を次世代へ

農文協から出版され

介しています。

### 「食の都庄内」構想

庄内は、県総合発展計画の一環として、「四季折々の食材の魅力」をもち、食品製造業が集積し、「山の幸、里の幸、川の幸、海の幸のすべてがそろう地域」

10月10日に発行された第7巻は、「地域文化が若者を育てる」（佐藤一子著）をテーマに、

第3章で「人と地域をつなぐ食文化―山形県庄内地域における「食の都」づくり―」を取り上げ、第3節で「食文化創造都市」鶴岡の地域づくりを詳しく紹介

し、2014年12月に日本で初めてユネスコ「創造都市」（食文化）の認定を受けました。

### 第1次産業が衰退

庄内は①人口減少が1990年32万8千人から2015年の28万人へ約5万人減少、②農業総産出額は85年の1122億円から06年の645億円へ約43%減少、③海面漁業生産額は93年の42・88億円から13年の26・87億円へ約37%減少しているという厳しい現実があります。

庄内の豊かな自然資源を活用して成り立ってきた第1次産業が衰退することは、地域全体の活力の低下、美しい景観の維持の困難につながるから、地域産業の活性化を目標に「食の都庄内」長期戦略構想が打ち出されました。

この長期構想の策定には12人の民間人も参加し、農漁協や青果物商、温泉女将会、食生活改善など民間組織の独自の食文化継承活動が総結集されています。著書では、この活動の中で「庄内浜文化伝道師」に着目し、庄内

## 私の昭和 50

鈴木重雄（89歳・八色木）

系統農協（農協）―  
連合会―全国連）  
のありまし

生産・生活資材を供給する庄内購買農業組合連合会（庄内購連）が設立された。

農協法施行と共に山形県内224市町村に専門農協（作物別畜産など）を含めた255組合が誕生した。

設立時の常勤役員4名の中に八栄島村農協長鈴木孝蔵さんが任命されている。

上部組織である全国連合は1県1連合であるが、例外として山形県だけ2連合会が認められた。山形県経済連と庄内経済連である。

本所は販連が酒田、購連が鶴岡であった。のちに販連、購連が合併し庄内経済連となった。

庄内の特殊事情とコメの取扱量が大きかったことと山居倉庫の力が強かったからである。（山形県農業協同組合沿革誌）

昭和23年8月、農産物集荷販売する庄内販売農業組合連合会（庄内販連）と同年7月、

庄内米の販売は経済連の背骨となすものである。組合員の生産するコメの販売は、保管施設と一運托生であるが、庄内に点在する倉庫群は商業資本に属し、農業団体の施設ではなかったため、産業組合以来各農協で倉庫建設運動が起こっていた。

浜魚介類の料理教室や生協共立社の取り組みを紹介しています。

### 食文化創造都市

鶴岡市のユネスコ創造都市（食文化）は、出羽三山の精進料理や黒川能にまつわる行事食、アバが伝えてきた浜文化など地域の食文化が渾然一体となった「食の理想郷」のイメージを浮き彫りにして、農林水産、商工、観光、市民生活の活性化を図る地域政策と言えます。

著書では、鶴岡が学校給食発祥の地として地産地消や食文化の継承と創造を行ってきたこと、在来作物に光を

当てた山大農学部、食文化を発信する農村女性ちけいけんの起業―知憩軒ちけいけんの長南光みつさん、菜あなの小野寺美佐子さん、穂波街道の庄司祐子さん等を紹介しています。  
榎本市長は、この11月に鶴岡市が農水省の「食と農の景勝地」にも認定されたことから、海外へPRし観光に力を入れていきます。

しかし、「農のある暮らしと食文化」の価値を次世代へ伝え、都市と農村の新たな交流空間をつくり、担い手が育つていく持続可能な地域をつくっていくのが、鶴岡市の進むべき太い道なのだ実感できます。



【シリーズ田園回帰】第7巻 地域文化が若者を育てる 佐藤一子著（農文協）表紙写真は鶴岡市三瀬地区と鳥海山・庄内平野遠望

# 中仙道テクテク一人旅(その13) 旅支度の今と昔 (薬編)

(新町 齋藤留治)

今も昔も信州木曾路の中心地は木曾福島町。この宿場は木曾路の中で最も谷が深い所にあり、中仙道の街道中にある碓氷と並んで「天下の四関(箱根・新居(静岡県)」と呼ばれた番所があった町でもある。

行き交うトラックに悩まされながら国道を福島町の中心部に向かって歩いて行くと、左手にその昔「高瀬家」と呼ばれた建物が見えてくる。

この家は私が中仙道を歩くきっかけとなった島崎藤村の「夜明け前」や、同じく藤村の小説「家」にも描かれている旧家でもある。

この家に藤村の姉が嫁いだ頃は胃腸に効能があるという「奇應丸」という薬を作っていて繁盛したようだが、残念ながら家運が傾き今は他人に渡ってしまっただ(今は資料館として開放されている)。

旅には薬は付き物で私も胃腸薬や絆創膏、足のマメ治療用として

針・糸・(細菌の侵入の恐れがある為滅多に使わない) マキロンを携帯していた。

テレビの水戸黄門様に随行する助さん・格さんの肩には「振り分け」といわれる荷物入れが下がっているが、道中で具合が悪くなっている人にあげるとたちまち良くなるというシーンもあって、江戸時代も薬は旅の常備品

天下の水戸光圀が使う薬とは効き目が違うとは思いますが、江戸時代に普通の旅人が持つ薬として熊の胆(胃腸薬)朝鮮ニンジン、唐辛子(貼り薬)が使用され



たということ。

そのひとつとして「奇應丸」も木曾路を旅する人達に珍重されたというところでしょうか。

今では江戸時代の草履きからウオーキング用の靴に様変わりしたが、それでも道中足は棒になってしまった。

江戸以前の旅(?)

たとえば戦場への道、アベ晋三によつて踏みだされてしまったPKOに名を借りた戦場の道、虎の尾を踏むことにならなければと思われて仕方がない。

## 自民改憲案前文は、 国民の義務強制に変質

―あらためて憲法を学ぶ 青山崇

憲法前文の意義は侵略戦争と戦争体制を厳しく反省し二度と戦争しないことを決意したことにある。ところが

自民案は「日本国民は、国土と郷土を…自ら守り…互いに助けあつて国家を形成する」「自由

と規律を重んじ、…自然環境を守りつつ、活力ある経済活動を通じて国を成長させる。」などと言っている。

これは、自ら国を守れ!と徴兵制などに応じることも命じているようなもの。また、今

も盛んに言われている互助努力(「互いに助けあい」)を国民に強制、国の社会保障を簡単に減らすことができるようにするもの。「自由と規律を重んじ」は、自由はつけたしで規律を重視し、規律とは、時の政府の価値観・施策を守ること、たとえば成立した安保法制は戦争などと言つて反対するのは規律違反だとするものである。「自然環境を守れ」と命じ、国や大企業が犯した自然



### 予測違いの大統領

随分長かったじゃないですか。あんなに丁寧にとつちが上だの下だのと毎日テレビに流しちゃつてサ。俺には解らない世界なんだが、あんなことで円やドル

ヒラリーを勝つと決めて会談の約束をしていたんだぜ。開票当時、首相のオモテが強張っていたと見たのは俺だけだったろうか。予測が当たらなかつたことに首相やマスコミからなにかあつたかな。

が違つとなれば、誰のためのニュースだったんだという事になるんだがネー。開票日だけで大損をしたとかの話もあつたようだが。

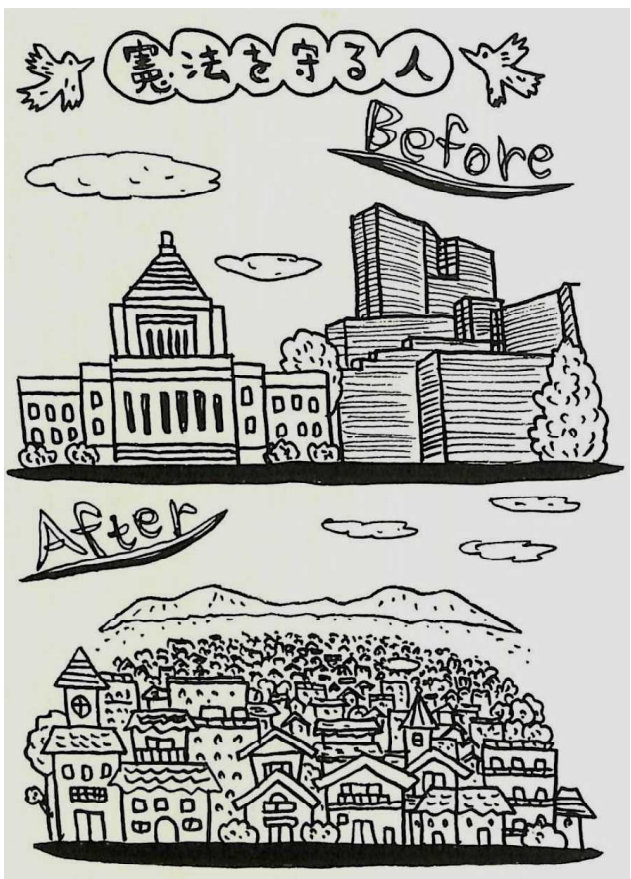
▲ヒラリーを勝つとみていたある評論家が、当選後のトランプの話が選挙中と違つてからと怒つていたが、この人・自民党がTPP反対で当選して強行採決していることには怒っていないんだから、自分だつて変でしょうや。

▲とにかく決まった。民主主義の国・アメリカは、選挙の確定を裁判所がすることもある国なんだが、今回はスナナリと思いきや抗議デモを見せてくれた。暴れてガラスを割る民主主義も見せてくれた。

▲俺は、どつちが勝つても米軍が日本から居なくなるようなことはないだろうと。案外、ひよつとしたら・とは思つていたんだが、ひよつとになったゼー。

▲暴れなければならぬのは、負ける候補者を毎日勝つと教られていた日本の純真な視聴者だろうぜ。あれはなんだつたんだヨー。

▲根拠は、1%の人の富が99%の人の富より大きい国。ここに変化が期待できれば。なーんてネ。(石川)



自民改憲案は、「権力者」を縛るものから「国民」を縛るものに変質(イラストは「あたらしい憲法草案のはなし」太郎次郎社から)